

第 21 回「社会・意識調査データベース (SORD)」  
ワークショップ

報 告

日 時 2008 年 3 月 6 日 (木) 10 : 00 ~ 14 : 00  
会 場 札幌学院大学 G 館 5 階特別会議室

## 第 21 回「社会・意識調査データベース (SORD)」 ワークショップの開催

The 21st Workshop of Social and Opinion Research Database Project (SORD)

社会・意識調査データベースプロジェクト 中澤 秀雄

ここに札幌学院大学「社会・意識調査データベース作成プロジェクト」(SORD) 第 21 回 WS の記録をお届けします。2008 年 3 月に開催された本 WS では、これまでの歴史では初めて、海外から、しかもアーカイブ先進地の英国から三人の研究者たちを招聘することができました。これは、札幌学院大学社会情報学部の特別研究推進プロジェクト予算の援助を受けて可能になったことであり、深く謝意を表します。

SORD では 2002 年以降、社会・意識調査に関するデータセット情報の収録・公開を行う一方、北海道という地域に根ざした地域研究や、北海道に関連して寄託いただいたデータセットの再解釈作業を展開しています。とりわけ現在は、科学研究費基盤 B の資金を得て、平成 18 年度から平成 21 年度にかけて、故・布施鉄治教授のグループが残した「夕張調査」の調査票等に関する資料集成を作成する準備を進めています。

布施教授らが対象にした、その夕張が 2006 年に財政破綻し、苦境に立っていることは報道を通じて知られていますが、SORD としては、この「布施データセット」を介して夕張再生のお役に立てることはないかと模索した一つの結果が、今回の WS の企画につながりました。スウォンジー大学は、英国南ウェールズの旧産炭地の中心に位置し、1970 年代に次々と炭坑が閉鎖されるなか、散逸しそうな資料を必死で救出し、アーカイブを構築してきました。そして今日、国内外で知られる SWCC (South Wales Coalfield Collection) というアーカイブおよび、Miners' Library という生涯学習図書館を擁してこれらの資料を活かしています。今回は、これら資料の管理に関わるアーキビスト、ライブラリアン、そして研究者の合計 3 名をお呼びすることができました。南ウェールズは山がちで孤立した地形、基幹産業の炭鉱を 1970-80 年代に国策で失った経緯など、北海道の旧産炭地と似た点が多く、しかしその中で、こうして歴史を直視しながら生涯学習や産業遺産保存を通じた再生のモデルを作ってきました。この経験に学ぶことは、SORD の任務であるアーカイブ管理学の発展のみならず、夕張はじめ旧産炭地の再生にとってきわめて重要であることは、以下の講演記録をお読みいただければ、すぐに了解いただけるものと思います。

当日のプログラムは以下の通りでした。

### ■南ウェールズと北海道の旧産炭地再生に関するワークショップ

The workshop to share the experiences of South Wales and Hokkaido coalfields' regenera-

tion

日時：2008年3月6日(木) 10:00~14:00

場所：札幌学院大学G館5階特別会議室

後援：札幌学院大学社会情報学部特別研究推進プロジェクト

- 10:05~10:45 南ウェールズ産炭地, その歴史と再生  
クリス・ウィリアムズ (スウォンジー大学教授)  
The South Wales Coalfield: History and Regeneration / Chris Williams
- 10:45~11:25 南ウェールズ産炭地と生涯学習  
シヤーン・ウィリアムズ (スウォンジー大学炭鉱図書館長)  
The South Wales Coalfield Collection and Lifelong Learning / Siân Williams
- 11:25~12:05 南ウェールズ産炭地資料の管理と利用の促進戦略  
エリザベス・ベネット (スウォンジー大学南ウェールズ炭鉱アーカイブ主任アーキビスト)  
Management of the South Wales Coalfield Collection and Strategies to Promote Its Usage / Elisabeth Bennett
- 12:10~12:30 布施教授資料再構築のためのSGUアーカイブ活動の紹介  
齊藤康則 (東京大学大学院人文社会系研究科博士課程)  
A Brief Introduction to SGU's Archiving Activity to Reinvent Prof. Fuse's Collection
- 12:30~13:30 討論

コメント：吉岡宏高 (札幌国際大学観光学部観光学科准教授・NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団理事長)

青木隆夫 (NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団副理事長・元夕張市夕張石炭の歴史村石炭博物館館長)

新藤 慶 (新見公立短期大学幼児教育学科講師)

その後、南ウェールズの三名は夕張を視察し、とくに石炭博物館については非常に感銘を受けたようで、「これがウェールズにあれば国内第一の石炭関連施設になるはずだ」とコメントしました。講演いただいた三名の方をはじめ、コメントと現地案内をアレンジして下さった青木隆夫・吉岡宏高氏、準備に関わった方々、通訳いただいた小田高史氏に謝意を表します。なお、

掲載されている原稿は講演に先だって送付された英文プロシーディングスと、それを日本語に翻訳したものであり、当日口頭発表された内容とは若干の異同があることをお断りしておきます。また、SORDメンバーの齊藤康則がおこなった報告にもとづく原稿は後日作成したものであるため、当日の報告タイトルと異なっています。

このワークショップおよび夕張視察については、2008年3月7日および8日の北海道新聞江別版・空知版に掲載されました。

